

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

地理

世界のリアルな様相に
触れる場を設け、
知的好奇心を刺激する



富山県立富山中部高校

土井 聡 どい・さとし



同校に赴任して11年目。地理歴史科(地理)。
情報教育部。教育相談部。

学校概要

◎設立 1920(大正9)年 ◎形態 全日制/普通科、探究科学科(人文社会科学科・理数科学科)/共学 ◎生徒数 1学年約240人

◎2023年度卒業生進路実績 国公立大は、東北大、東京大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪などに231人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ594人が合格。

私が
目指している
授業

旅好きの私は、旅先の気候や現地での食事、触れた文化などについて、自分が撮影した写真を見せながら話すことを通じて、生徒が地理の教科書の内容をリアルに感じられる授業を目指してきました。ICT環境が整備された今は、機を見て世界と教室をオンライン会議ツールでつなぎ、生徒が現地の人と話す場を設けています。教科書の内容がリアルな情報と結びつくことで知的好奇心が刺激され、学ぶ意欲が高まる生徒が少なくありません。また、以前ある生徒から、「笑顔で話せば、先生の話の面白さがもっと伝わるのに」と言われたことがありました。そのため、私自身が好奇心を持って学び、楽しく話すようにして、生徒が「学びは楽しい」と感じられるよう、努めています。

授業レポート

本時の概要

【対象】3年生 【教科・科目】地理歴史科・地理探究
【単元】現代世界の諸地域・ラテンアメリカ
【単元目標】ボリビアの実情を手がかりに、南米の多様な自然や社会を理解する。 【授業時数】全3時間のうちの1時間目
【本時の内容】ボリビア在住の独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）職員とのオンライン交流



単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。 <https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/> または右の2次元コードからアクセスしてください。



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

1 本時の目標を確認

🕒 10分間



土井先生は、本時はボリビアの首都ラパスに住むJICA職員の平田すみれさんとの対話を通じて既習事項を確認しようと、生徒に声をかけた後、オンライン会議ツールで現地とつないだ。先生は平田さんに現地時間を尋ね、日本との時差が13時間であることを確認。続いて、平田さんが自己紹介を行った。

2 ボリビアの生活の様子を聞く

🕒 15分間



土井先生は、ラパスの標高や気候、住民の服装、食生活などについて平田さんに質問。平田さんは、自身が撮影した写真を見せながら現地の様子を伝えた。「ボリビアの国土面積は日本の約3倍で、高地と低地では食生活が全く違う」と平田さんが話すと、土井先生は地図帳の南米のページを開くよう、生徒に指示した。

3 ボリビアの産業について考察

🕒 10分間



話題は食生活から農業に転じ、主要輸出品が鉱物から低地で栽培される大豆やトウモロコシなどに代わりつつあると、平田さんは説明。また、海外協力隊員だった時の活動やJICA職員となった経緯についても語った。生徒は、それらの話を配布されたワークシートにメモした。

4 生徒が平田さんに質問

🕒 20分間



本時のキー課題

生徒が「ボリビア米があるなら、水田を見たことがあるか」「平均給与はいくらか」「国会議員の何割が先住民族なのか」などと平田さんに質問。平田さんは自分の経験を交えて回答した。交流終了後、土井先生は、次時は平田さんに新たに質問したいことをグループで考えようと言った。

発問・課題設定の観点

リアルな情報を
起点に、地理的な
見方・考え方を働かせる



系統地理学の単元の学習はほぼ終え、地誌学の単元に入るタイミングで、ボリビアに住む平田さんとオンラインで交流しました(図1)。そのねらいは、現地に住む人との対話を通じて、既習事項を現実感を持って確認するとともに、既習事項間の相互関係を捉え、地誌学に多面的にアプローチできるようにすることです。

図1 本単元の指導計画(概要)

- ボリビア在住のゲストとの交流(本時)**
ボリビアに住む平田さんに、現地の生活や産業などについて、オンラインで聞く。
 - ゲストへの質問を考える**
前時の感想や気づきをグループで共有し、平田さんへの質問を話し合った後、各自で質問を考えて、メールで平田さんに送る。
 - 南米の地誌学習を行う**
ボリビアの学習で得られた知識を基に、ブラジルやアルゼンチンなど、他の南米の国について学ぶ。
- ※学校資料を基に編集部で作成。

図2 本時の平田さんへの質問(抜粋)

- 平田さんの話** 人口の半数以上が先住民族。国民の大半がキリスト教徒。
- 生徒の質問** 先住民族にはそれぞれ土着の信仰があると思うのですが、なぜ、キリスト教徒が多いのでしょうか。
- 生徒の質問** 国会議員に占める先住民族の割合はどの程度なのでしょう。
- 平田さんの話** GDPは年々上昇。
- 生徒の質問** 中所得国のボリビアは日本などから支援を受けていますが、高所得国の先進国に何を求めているのでしょうか。

※取材を基に編集部で作成。

学習評価の工夫

アウトプットの
内容に着目し、その後の
学習につながる声かけをする



学習評価は、ワークシートの記入内容やグループでの考察を踏まえて考えたゲストへの質問内容などを材料に行っています。

評価の際に着目していることの一つに、アウトプットの量がありません。ワークシートにはゲストの話やワークシートの質問を聞いて得た気づきなどを書かせています。生徒の記述を見て、地誌学における深い考察につながるような気づきには下線を引いて、生徒に返却しています(図3)。

次時は平田さんに新たに質問したいことを検討しましたが、その質問が地理的な見方・考え方を働かせて考えた内容になってきたかどうかも評価しました。他国と比較してボリビアの問題を捉えているなど、深く考察された質問は、

図3 本単元のワークシート 生徒の記述と土井先生のコメント(例)

7 平田さんの質問
期日 月 日 1回目の授業

言語、治安
低地と高地の住みの違い
外国人(日本人)への差別はない?

深化!
そのままだと高地に首都をおいたのは
低地(熱帯)はどれ(ど)暮らしやすいのか
民族的寛容の理由
サンタフェとラパスの発展差

8 ボリビアの平田さんへ、感想や質問を含んだ、手紙を書いてみよう。

ボリビア→ラパス→高山気候、程度の発想は
わかっていたのか、南米にははるばる遠く、社会的
課題は少なからずあるのでは? 高山、
気候の差は人の暮らしに影響を与えているのを認識しました。

地理的考察
見極め、理解が
深くなる。

授業中のリアルな体験を自分のものにしてください!

ワークシートには、オンライン交流当日の質問と、次時にグループでの考察を踏まえて考えた質問、平田さんへのメッセージを記入。土井先生は、ボリビアの地誌に対する理解が深まっている記述に下線を引き、コメントを書いて生徒に返却した。

※学校資料を抜粋して掲載。

よい点などをフィードバックしながらクラス全体で共有しました。生徒へのコメントは、「地理的要因だけでなく、歴史的経緯も理解しよう」「行きたいと思った時点でスタートは切っていますよ」などと、「調べてみよう」「やってみよう」などと生徒が思い、楽しく学べるような言葉を心がけています。地理での学びや気づきが、生徒の人生をより豊かにするような評価を目指しています。



リアルに触れて育むキャリア観と情報リテラシー

■これまでに実施した主なオンライン交流

協力者	テーマ
韓国・ソウル大学に留学中の日本人大学生	大学生が見る、現代韓国の政治、経済、外交
韓国の高校で日本語教育に携わる日本人教師	現代韓国の若者事情と、日本のコンテンツ産業
オーストラリア・ブリスベンに留学中の日本人大学生	多文化主義、留學生生活
タイに留学中の日本人大学生	サバナ気候と食文化、自身の英語力の伸長
東南アジアを旅行中の日本人大学生2人	カンボジア・シェムリアップからの現地レポート
アメリカ・シアトル在住の元ALT	アメリカでスタートアップ企業が数多く生まれる理由
台湾を旅行中の日本人大学生	台中の街歩き、朝食レポート
北海道大学と琉球大学の日本人大学生	気候を扱う単元で2元中継
国際政治が専門の富山大学の日本人教員	インドの都市問題、環境問題とSDGs

※学校資料を基に編集部で作成。

海外在住者に自身のキャリアを語ってもらう

海外在住者とのオンライン交流では、現地で働いている・学んでいる理由や自身のキャリアについても語ってもらっています。本時は平田さんに、JICA職員になった経緯を質問した生徒がいました。世界で活躍する人の経験談は、生徒のキャリア観も広げています。

また、日本における常識では考えられないような、様々な国の様相に触れることは、生徒にとって多様性を受け入れる素地や倫理観を養う機会にもなっています。

オンライン交流は本校の卒業生や私の知り合いにお願いしていますが、多様な経歴の人を招くために、私自身が様々な場所を訪れて人脈を広げています。平田さんは今年4月、海外協力隊について知りたいという生徒のために、とやま国際センターに紹介してもらって知り合いました。今後も交流を続けさせてもらえないかと依頼し、今回のオンライン交流が実現しました。

情報を調べる、確かめる

海外在住者の話を聞き、さらに詳しく知りたいと、その場でインターネットで調べる生徒がよくいます。インターネット上の情報と海外在住者の話が合致することもあれば、しないこともあります。そのため、どれが正しい情報なのかを確かめる必要があると、生徒に伝えています。

また、多様な媒体から様々な情報を得るからこそ、疑問を抱き、現地に行って確かめたいと思うことも少なくないはず。ぜひ実際に行動し、リアルな経験を積み重ねてほしいと思います。



端末で調べたり、教科書を読んだり、生徒はそれぞれの方法で情報を確認していた。

成果と展望

教師自身が
主体的に学び、生徒が
主体的に学ぶ授業をつくる



本時は平田さんの話を受けて、インターネットで同国の所得について調べ、「中所得国のボリビアは日本などから支援を受けているが、高所得国の先進国に何を求めているのか」と質問した生徒がいました。そのように、リアルな情報に触発された生徒は、自分で調べ、考えを深めていきます。そうした姿勢は通常の授業にも波及し、生徒は主体的に学び、意見を述べ、積極的に質問します。

私自身が「主体的・対話的で深い学び手」であってこそ、生徒を深く理解し、生徒に合った教材を適切な時期に提供することができ、生徒の主体的・対話的で深い学びが実現します。これまでも率先して人脈を広げ、海外在住者と交流してきました。今後は、全国の地理担当の先生方とつながり、協働して授業を行うことにも取り組むたいと考えています。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任